

琴畑カブと3種の豆のしそ実漬け(エゴマ葉入り)

全国堂々の3位

漬物グランプリ2022



学生特別賞を受賞した「琴畑カブと3種の豆のしそ実漬け(エゴマ葉入り)」。同漬物は、緑峰祭などで試食会が行われる予定。

遠野緑峰高校 生産技術科野菜果樹研究班

写真(上段左から) 菊池潤さん、菊池健翔さん、似田貝翔さん(前列左から)
菊池凜星さん、瀬川愛瑠さん、細川雛さん、佐々木萌叶さん(いずれも3年)

遠野緑峰高野菜果樹研究班の「琴畑カブと3種の豆のしそ実漬け(エゴマ葉入り)」が同グランプリ2022で全国3位相当となる学生特別賞を受賞しました。

グランプリは、4月27日から29日に東京ビックサイトで開かれ、同研究班が出場した個人の部には全国各地から約80点が参加。出品した漬物は、カブの特長を生かし、あっさりとした味付けが高く評価されました。漬物を考案した菊池健翔さんは、「まさか賞がとれるとは思わなかった」と照れ笑い。思い通りの味付けにならず、班員らと半年間試行錯誤を繰り返した日々を思い返しました。

考案した漬物や琴畑カブを知ってもらおうと、試食会も計画中。班員は2019年の日本一獲得以来の受賞に「もう1度日本一を目指したい」と意欲を新たにしました。

◆退職消防団員感謝状

【市消防団長表彰】 ※敬称略

太田達郎(第5分団分団長)

千葉清勝(団本部副分団長)

太田達雄(第1分団副分団長)

菊池勝義(第3分団本部部長)

菊池清彦(第7分団本部部長)

「キラッと、遠野人。」

情報をお寄せください

①市内在住、または市内に通学・通勤する人②市外の学校に在籍する本市出身者——で、各種大会やコンクールなどでおおむね▷県1位(最優秀賞)以上▷全国入賞——の成績を残した人の情報をお寄せください。

◎問い合わせ

市経営企画課(☎62-2111内線216)

安定した行射で初栄冠

第64回弓道県選手権大会



小向 斐日莉さん (遠野高3年)

小向さんは、4月16日に県営武道館弓道場で開催された同大会高校女子の部で、自身初の優勝を飾りました。

大会には県内の高校生106人が参加。予選では4射皆中で会場を沸かし、決勝戦では、1射目を外したものの、持ち前の修正力から2射目を的中させて優勝をつかみ取りました。小向さんは、「大会前日まで調子が悪く優勝できるとは思っていなかった。決勝も緊張から足が震えていたが、それでも弓を支える左手の修正を意識したことが結果につながった」と振り返っていました。

春の叙勲・褒章

長年の功績により受章した皆さんを紹介します。

旭日双光章

岩手県建設業協会
副会長

三浦 貞一さん

(株)テラ 代表取締役

70歳=青笹町=



昭和45年から建設業に従事して52年。道路工事や河川工事の技術者として半世紀以上にわたり市民生活の向上に貢献しました。東日本大震災発災後は、がれき撤去や復興道路の建設工事に注力し、被災地を支援しました。現在は岩手県建設業協会副会長や株テラの代表取締役を務め、後輩の指導にもあたっています。三浦さんは、「出会った人に恵まれ仕事を続けることができた。これからも初心忘るべからずの精神でまい進したい」と決意を語りました。

瑞宝双光章

保護司

菊池 光平さん

74歳=綾織町=



平成6年から28年間、保護司として罪を犯した人や非行少年の更生保護活動に尽力しました。現在も保護司を務め、対象者がスムーズに復帰できるよう、定期的に面談や支援をしています。また、市内の犯罪や非行防止を未然に防ぐ活動も展開しています。菊池さんは、「大きなトラブルや事故なく務めることができたのは、家族や地域の理解があったからこそ。これからも安心・安全な遠野のまちづくりに貢献したい」と意欲を新たにしました。

瑞宝単光章

元遠野市宮守消防団
副団長

菊池 正司さん

73歳=宮守町宮守=



昭和42年、宮守村消防団に入団。以来、40年にわたり消防団活動に力を尽くしました。分団長や副団長などの要職を歴任。過酷な現場でも冷静に指揮し、火災や水害現場の被害拡大を食い止めました。長年の現場経験を後輩団員に伝え、消防技術の発展と消防団の組織力向上にも貢献しました。菊池さんは、「40年間活動できたのは、地域のみなさんや家族の支えがあったからこそ。今後も地域のために尽くしたい」と思いを語りました。

瑞宝単光章

元遠野市宮守消防団
分団長

菅原 正和さん

73歳=宮守町宮守=



昭和45年から約37年、消防団員として活動。部長、副分団長を歴任後、平成14年から分団長を務め、婦人消防協力隊や幼年少年消防クラブと連携した火災予防活動を展開しました。勇退後も地域の防災活動発展のため令和2年末までの10年間、機能別消防団員として活動。通算約47年にわたり地域の安心・安全を守り、団員育成にも尽力しました。菅原さんは、「消防団人生が長いと感じなかったが、今までの苦勞が報われた」と笑みを広げました。